

平成28年第5回高山市議会定例会 一 般 質 問

◎一般質問の順序

月 日	議 員 名	会 派 名	ページ
12月9日(金)	1. 上嶋希代子 議員	日本共産党高山市議団	1
	2. 牛丸 尋 幸 議員	日本共産党高山市議団	2
	3. 沼津光夫 議員	高山市政クラブ	3
	4. 榎 隆 司 議員	高山市政クラブ	4
	5. 渡辺 甚 一 議員	高山市政クラブ	5
	6. 今井武男 議員	高山市政クラブ	6
12月12日(月)	1. 谷村昭次 議員	創 政 ク ラ ブ	7
	2. 西田 稔 議員	創 政 ク ラ ブ	8
	3. 車戸明良 議員	創 政 ク ラ ブ	9
	4. 木本新一 議員	創 政 ク ラ ブ	10
	5. 中田清介 議員	創 政 ク ラ ブ	11
	6. 藤江久子 議員	創 政 ク ラ ブ	13
12月13日(火)	1. 山腰 恵 一 議員	高山市議会公明党	14
	2. 中 箴 博 之 議員	高山市議会公明党	15
	3. 松山篤夫 議員	無 会 派	16
	4. 谷澤政司 議員	無 会 派	18

◎質問時間等については以下のとおりです。

議員の質問のみで40分。質問回数は制限なし。

※ 反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間に含めない。

◎一般質問の内容は次のとおり通告されています。

【上 嶋 希 代 子 議員】

1. 老老介護世帯への支援について

- ①支援の現状と課題は
- ②今後の対応策は

2. 就学援助世帯への入学準備金支給の時期について

- ①入学準備金の支給の実態は
- ②支給時期を入学前にできないか

3. 2学期制の実施について

- ①これまでの経過は
- ②市民への説明と合意はできているか

4. 人口減少について

- ①人口8万人台への減少結果をどうみるか
- ②人口8万人台の結果を踏まえて、新たな人口減少に対する取り組みは

【牛 丸 尋 幸 議員】

1. 市のごみ処理と新ごみ処理施設建設について

- ①新ごみ処理施設建設についての住民説明会が市長も参加して4町内会で開かれたが、市長の受け止めは
- ②住民説明会で出された住民の声の内容は
- ③これまでごみ処理施設周辺に迷惑をかけてきた内容とその時期は
- ④現在のごみ処理施設のダイオキシン対策が行われる前のダイオキシン量の年度ごとの測定値は
- ⑤新ごみ処理施設ではプラスチック類を燃やすと説明されたが、その具体的な内容は
- ⑥地元町内会との「覚書」「承諾書」へのこれまでの対応は
- ⑦「次回のごみ処理施設の建設候補地は、現施設周辺地域以外の場所から選定します」と言うが、この約束をどう守るのか
- ⑧廃棄物の減量化（発生抑制、再使用、再生利用）のさらなる推進をすべきでは
- ⑨現在のごみ処理施設の性能保証期間を延長し、排出される有害物質を最小限にすべきでは

2. 小中学校の給食費について

- ①食材費の高騰にどのように対応したのか
- ②給食費の年度別の滞納状況と、その内容は
- ③給食費の保護者負担の軽減策をすべきでは

【沼 津 光 夫 議員】

1. 地域産業の活性化について

- ①市として一番大切な産業は何か
- ②一次産業に対する市長の考えは

2. 空き家対策について

- ①空き家調査結果の状況は。また、結果をどう捉えているか
- ②全国的には空き家バンクなどいろいろな政策が行われているが、市の取り組みは
- ③高山地域の空き家が支所地域より大変多い。今後の対応は
- ④U I J ターンまた新規就農など空き家を活用した人口増加策の考えは

【榎 隆 司 議員】

1. 介護環境について

- ①在宅介護等の問題に対して、見守り等のネットワークを確立し支援する考えは
- ②地域の見守り協力隊の育成目的として、小中学生に認知症サポーター研修を実施しては
- ③介護申請手続きのサポートの充実に対する考えは
- ④成年後見人の育成に対する考えは
- ⑤低所得者や障がい者が成年後見人制度を利用する場合「市長申し立て」の制度があるが充実する考えは

2. 道路の維持管理について

- ①点字ブロックの点検整備等の基本ルールの内容はどのようになっているのか
- ②通学路・スクールゾーンに「歩車共存型舗装」「グリーンベルト」を導入する考えは

3. 伝統的工芸品産業の振興について

- ①商品開発等に商品仲買人（ディストリビューター）の意見を聴取する考えは

4. 食と農の景勝地について

- ①市の取り組みの考えは

【渡 辺 甚 一 議員】

1. 城跡管理と今後について

- ①市内には城跡は地域ごとにどれくらいあり、史跡等の指定はあるのか
- ②都市計画区域の指定はあるのか
- ③史跡の指定や都市計画区域での立木の伐採の規制はあるのか
- ④高山城跡の立木の伐採はできないか
- ⑤高山城跡に桜やモミジの植栽はできないか
- ⑥松倉城跡の立木の伐採はできないか
- ⑦市内全城跡の整備と登山道整備はできないか
- ⑧市内全城跡の立木の伐採と桜やモミジを植栽して観光特区にできないか

2. 狩猟免許について

- ①有害鳥獣の捕獲状況は
- ②有害鳥獣の捕獲報償単価は他市と違うのか
- ③わな・猟銃免許の新規取得者と返納者の数は
- ④免許取得の内容と経費と支援は
- ⑤免許取得後の支援体制はあるのか
- ⑥新射撃場の規模と今後の予定は
- ⑦新射撃場の安全性と地元説明会の内容は
- ⑧新射撃場の今後の支援体制と免許取得はどう変わるのか

【今 井 武 男 議員】

1. 清流の国ぎふ森林・環境税の取り組みについて

- ①清流の国ぎふ森林・環境税の市における事業の成果は
- ②今後市として、清流の国ぎふ森林・環境税を活用した取り組みの考えは

2. 緊急輸送道路等の避難路沿道建築物の耐震診断の義務化について

- ①市町村を通して3年以内の報告義務化に対して市の対応は
- ②診断後の耐震化工事等の市の対応は

3. ヘルプカードについて

- ①平成27年6月議会に一般質問したヘルプカードのその後の経過は
- ②県では平成29年度からヘルプカードの無料配布をすすめているが、市の対応は

【谷 村 昭 次 議員】

1. 新しい時代に求められる教育について

- ①市の学校教育における「社会に開かれた教育課程」の実現への考えと特色ある取り組みは
- ②社会に求められる学力への市の取り組みと考えは

2. 公共工事における建設発生土について

- ①公共工事における建設発生土の発注積算上の処理の手法と数量は
- ②建設発生土を自由処分とする経緯と意図は。処理量100 m³未満の年間発注量の占める割合は。運搬距離の設定の根拠は
- ③地域特性と社会情勢の変化に対応した建設発生土の処理費用の積算ルールの取り組みは
- ④再資源化及び不良土の受け入れ処理の状況は
- ⑤費用対効果において、建設発生土の処理による効果の認識と考えは
- ⑥自然と土地への「やさしさのある」扱いこそが「未来の高山」において地域資源を守ることになると考える。市はどう考えているのか

3. 健康格差について

- ①生活習慣病予防と自己管理面からではない社会経済的要因（教育、職業、所得、地理、交通アクセスなど）による健康格差の認識と考えは
- ②ベジタブルファースト（飲食店に野菜から先に提供いただく取り組み）など、市民の健康への意識が低くても自然と健康になれる仕組みに向けた取り組みの考えは
- ③公益財団法人医療科学研究所は、健康格差を縮小するため「3つの段階及び対策の7原則」を示しているが、市は現状をどう捉えているのか。そして今後の考えは

【西 田 稔 議員】

1. 江名子川の増水対策について

- ①平成26年に改訂された県の宮川流域における総合的な治水対策プランでの江名子川整備の進捗状況は
- ②対策プランにおける江名子川上流域の調節池建設はどうなっているのか
- ③関係町内会への説明は

2. 学校図書司書の配置について

- ①昨年的一般質問で答弁された課題についてどう対応されたのか
- ②児童数、蔵書数、市中心地からの利便性等理由はあろうが全校配置が望ましい。市教委の考えは

3. 町内会加入促進策について

- ①町内会加入率の低下について市の考えは
- ②未加入者への町内会に加入してもらうための促進策は

【車 戸 明 良 議員】

1. 地域産材を活用した建築材料CLT（直交集成板）について

- ①市域の森林資源の蓄積量と人工林の年間平均成長量と利用量は。地域木材産業の状況は
- ②地方創生の切り札と言われているCLTの最近の状況は
- ③CLTに関してどのように考え展開しようとしているか(林業成長産業化のモデル地区など)
- ④日本CLT協会、CLTで地方創生を実現する首長連合への参加や企業誘致、海外戦略などを研究する方向性は

2. 古い町並周辺の観光活性化・回遊性向上について

- ①今年の観光動向と、古い町並周辺の観光客の状況は
- ②下二之町を車両通行規制して行った社会実験の目的は
- ③道路を活用した賑わいづくりの社会実験を検証した内容と結果は
- ④古い町並の交通混雑解消のための外縁部駐車場への誘導結果と、試行から見い出せる道路景観の維持管理のあり方は
- ⑤古い町並周辺の活性化・回遊性の向上に向け、同様の取り組みの今後の方向性は

【木 本 新 一 議員】

1. 射撃場建設について

- ①射撃場建設に対する市の考え方は
- ②既存射撃場の撤去整備は
- ③鉛対策及び騒音防止対策は
- ④地元住民の理解と地権者の同意は
- ⑤旧国道361号線からの取り付け道路の拡幅整備の考えは
- ⑥ジビエの需要拡大推進状況は
- ⑦飛騨ふるさとトンネル口からのアクセス道路改良の考えは

2. 国道361号線の整備について

- ①上ヶ洞トンネル（仮称）の供用開始は
- ②下之向橋及び中之宿地内の改良は
- ③通称「南部アクセス道路」としての整備方針は

【中 田 清 介 議員】

1. 今後の観光まちづくりにおける駅前中央通りの位置づけについて

- ①今回外部資本による上一之町のホテル建設構想が表明された。改めて駅前中央通りの持つ役割がクローズアップされるのではないか。この動線を再整備して活用することが今後の観光都市高山の座標軸ともなりうる。今後の対応は
- ②観光客を受け止めるエリアの拡大は、多くの人が認める観光都市高山の課題のひとつ。魅力あるウォーキングエリアの整備が、今後の観光に資するまちづくりの主体となるはずである。国分寺通り・広小路通りを含むエリアとしての街路整備の充実が求められているのではないか。今後の対応における見解は

2. 高山駅西口地区整備の方向性と交通政策並びに交流施設の整備について

- ①観光を目的とする流入交通を受け止める市内の中心拠点が、今後整備される駅西駐車場と考える。今後いっそう川東地区の駐車場や不動橋駐車場、天満駐車場との連携が重要視される中で、望ましい規模での整備はできそうなのか。その運営主体はどの様に位置づけ、各方面との連携体制は準備できているのか
- ②中橋を中心とする車両進入制限社会実験は先送りされている。車の抑制を住民の生活の向上と事業者の利益に繋げる交通政策が必要と言われて久しい。難しい問題だがそのためには、周到な準備期間と説得力ある計画の体系化が必要。今後の交通体系整備の中で、現状をどう受け止め今後はどう対応していくつもりなのか
- ③駅西口地区整備の中で、交流施設整備の方針はとん挫しているが、今後適正規模での施設整備は求められるものと考え。駅西口地区整備の中での位置づけはどうしていくのか

3. 少子化が進む中での学校区の問題、2学期制への移行とまち協の運営単位について

- ①この問題については、学区再編とコミュニティ・スクール及び小中一貫教育などへの対応として問題提起されていると認識している。今年度後半までには一定の報告ができるようにしたいと聞いていたが、準備できそうなのか
- ②そうした中での2学期制移行への表明である。唐突の感は否めない。今後議会との協議を経て決定していくと伝えられているが、決定の前の協議とはどういうことと認識しているのか
- ③市政運営の一つの基礎単位として位置付けられているのが小学校区である。これまでの町内会組織しかり、まちづくり協議会の運営しかり。今後まちづくりの基礎単位として、既存の小学校区に依存することに問題はないのか。特に高山地域のまちづくり協議会の運営単位として適正なのか、その見解は

【藤 江 久 子 議員】

1. インフルエンザ予防接種について

- ①今年のインフルエンザは一か月以上早く流行期に入っているようだが、市の状況は
- ②65歳以上の高齢者の接種率はどうなっているのか
- ③接種率を上げる施策について、市の考えは

2. 健康増進施設の進捗状況について

- ①健康増進施設（温水プール）建設について、経緯と現在の進捗状況は
- ②今後の開設予定と、規模と機能について
- ③市は早期建設のためにどのような努力をされたのか

3. 療養型通所介護事業について

- ①療養型通所介護事業の利用状況と、市の助成はどのようになっているのか
- ②医療依存度の高い障がい児者のショートステイが可能になったのか

4. 子どもにやさしいまちづくりについて ～市民意見交換会のご意見から～

- ①上宝、奥飛騨温泉郷地域における乳幼児健診については、地元で受診することができないのか
- ②「子どもが水遊びや砂遊びができる環境整備をしてほしい」とのご意見にどう応えていくのか
- ③「ポップ公園のような子どもが安心して遊べる公園がほしい」とのご意見にどう応えていくのか
- ④「子ども同伴のバス利用に対し、バス代を補助してほしい」とのご意見に対する市の考え方は
- ⑤「上宝・奥飛騨温泉郷地域の子ども達が高校に行く場合、バスで通学するか、下宿するかの選択になる。飛騨市では定期券の補助があると聞いているが、高山市でも補助してほしい」とのご意見に対する市の考え方は

【山 腰 恵 一 議員】

1. 救急救命について

- ①高齢化の進展による将来の救急救命の需要予測と体制確保（人員・車両）はどうか
のか
- ②市郊外にはA E D設置施設が極めて少ない。公民館等の一時避難所に必要と考える
が
- ③公共施設のA E D設置は屋内であるため閉館後に救命事態が発生した場合、利用が
できない。屋外設置も必要ではないか
- ④24時間利用できるコンビニへのA E D設置を推進してはどうか

2. 高齢者施設の防災対策について

- ①浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域にある高齢者施設の把
握はされているか
- ②各施設における避難マニュアル策定状況は
- ③避難訓練について実態を把握されているのか

3. 過疎化・高齢化する地域の自家用有償旅客運送について

- ①岩滝まちづくり協議会が導入した福祉車両「ささゆり号」の対応の経緯は
- ②本来予定していた車両運送ができない。その理由は何か
- ③福祉有償運送としての目的で地域の実情を考慮すれば、地域組織でできるのではな
いか

4. 人工内耳装用者への補助について

- ①人工内耳装用者への補助はどう検討が進められてきたか

5. クラフト等のものづくりへの振興について

- ①クラフト等の分野へもっと光を当て振興を図ってはどうか
- ②クラフト等のものづくり作家を一堂に呼び込んだ仮称「飛騨高山クラフトフェア」
をまちなかで開催してはどうか

【中 箴 博 之 議員】

1. 支所のあり方について

- ①総合支所としての機能の検証は
- ②支所の裁量枠や権限を拡大する考えは
- ③協働のまちづくりを進める中で、支所は地域の何を担う場所と捉えるのか
- ④支所業務の見直しと組織再編・職員配置の議論は

2. 身近な公園の整備について

- ①市民のニーズをどう把握しているのか
- ②新たな公園整備は行わない方針なのか
- ③「住民一人当たりの公園面積」という指標設定は妥当か

3. 大型公共工事の透明性確保について

- ①機械設置工事にブラックボックスはないか
- ②毎年の維持管理業務を施工業者が随意契約で受注するのは妥当なのか
- ③委託工事の透明性は確保されているのか
- ④透明性確保のために市はどう対応してきたのか
- ⑤今後を見据えて、外部の専門家に委託するなどの対応策が必要では

【松 山 篤 夫 議 員】

1. (仮称)健康づくり及び地域医療の確保に関する基本条例の制定について

- ①生涯にわたって健康であり続け、心豊かな生活を送ることは、誰もが望むことであり、社会の活力に欠くことのできないものである。地域医療を守っていくためには、限りある医療資源を大切にし、市民、行政、医療機関等がそれぞれの役割を認識して、協力し合うことが何よりも大切である。健康寿命を延伸するための「健康づくり」の重要性と市民の健康を守る「医療」への需要はますます高まっていく。理念の共有により、健康づくりと地域医療を守る取り組みをより一層推進するため条例の制定が必要と考えるが、市の考えは

2. 自然環境の保全と生物多様性について

- ①「ライチョウを守ることは日本の自然、文化を守ること」と言われ、ライチョウは古来、水源の奥山に生きる「神の鳥」として大切に扱われてきたが、減少が止まらない。その原因として野生生物による生息環境の破壊が挙げられている。現在、乗鞍岳にはどれぐらいの個体数が確認されているのか。また、どのような保護策がとられているのか
- ②清流は市の大切な自然資源である。市民憲章には「わたくしたちは乗鞍のふもと、山も水も美しい飛騨高山の市民です」とうたわれている。澄んだ水の美しさは人の心に安らぎと癒しをもたらす。清流条例の制定は周辺環境の保全や生物多様性の維持を大きく支えると考え、市の見解は

3. 早生樹植林による林業の活性化策について

- ①スギやヒノキではなく、もっと成長の早い木を植えて育てる「早生樹」を里山に植える試みが広がっている。中でもセンダンは有望樹種の一つである。スギやヒノキは植えてから40～50年かかるが、センダンは10～20年で十分である。材質は堅く、内装材や家具材に向く。多様な国内需要に応えられると同時に、地域おこしにもつながる可能性がある。市の考えは

4. 観光施策について

- ①図書館はそのまちの文化のバロメーターといわれるが、煥章館を外国人観光客に飛騨の文化、歴史等をリサーチができる観光資源の場として有効活用できないか
- ②外国人観光客を対象とした日本政府観光局の調査ではごみ箱不足のクレームが多い。外国人観光客の多い市街地にごみ箱を設置する考えは
- ③外国クルーズ船の寄港が急増している。政府は地方創生に外国クルーズ船を利用する動きを進めているが、市の誘客への考えは

【谷 澤 政 司 議員】

1. 消防団員の現状と将来に向けた整備等の取り組みについて

- ①災害・捜索・消火など多様化する活動に合わせた消防団員確保の現状と若年層の入団促進への新たな取り組みは
- ②消防ポンプ車の使用頻度の高い班の実情に合わせた更新の考えは
- ③災害対応や行方不明者捜索など広範囲な消防団活動に対応できる簡易デジタル無線携帯型の器数増加への取り組みの考えは

2. 将来を見据えた学校教育及び校内整備について

- ①荘川町・一之宮町などでは保育園・小学校・中学校が合同で郷土を愛する教育を進めており、地域住民からも協力がある。市内各地区において歴史的伝統文化行事等を行うことが魅力あるまちづくりに繋がるので、取り組みを拡充する考えは
- ②全国の学校トイレ約140万個の内、洋式トイレは43%であることが報道された。学校トイレの洋式化を進めるべきと思うが市の状況は
- ③学校トイレをさらに和式から洋式に更新整備する考えは